

令和4年度徳島市高齢者福祉計画及び介護保険事業計画策定委員会議事録

令和4年10月24日（月）14：00～

ホテル千秋閣 鳳の間

参加者 委員 15人 欠席 7人 事務局 10人
出席委員が委員総数の半数以上となっているため、本委員会が成立していることを報告した。

議事1 「介護保険事業の状況について」

【認定率について】

委員 徳島市の認定率が県平均や全国平均、近隣7市より高くなっている理由は何か。

委員 徳島市において認定率の高い状態は以前から継続している。その理由の分析は必要である。日常生活圏域別の認定率について、それぞれの圏域別の高齢化率や居宅介護支援事業所や介護サービス事業所の数との因果関係の有無についても分析していくとよいのではないか。認定率の高い理由については、このような観点からも日常生活圏域別に詳しく分析してほしい。

委員 資料3ページ「第1号被保険者における要介護（要支援）認定者数及び認定率の推移」のグラフについて、日常生活圏域別に分析したグラフはあるか。日常生活圏域別に見た場合にもし偏りがあれば介護保険事業計画にも影響してくるのではないか。

事務局 徳島市における認定率が高くなっている理由については分析していかなければならないと考えている。過去に認定審査が甘いため認定率が高くなっているのではないかという声もあったが、そのようなことはなく認定審査は適切に実施されている。
認定者数及び認定率の日常生活圏域別のデータの有無については把握できていない。ただ、認定率等に関する多くの指標がでていることから、第9期計画においてはそのような指標を重要視し勘案した上で反映していく必要があると考えている。

【介護給付費について】

委員 資料5ページの「介護給付費」について、新型コロナウイルス感染症の影響を感じるが、今後もこのような状況が続いていくと考えているか。また、状況が継続したとすれば、高齢者・介護サービス利用者にとどのような影響が出てくるのか。

委員 通所系サービスであれば人々との交流の機会があるが、在宅サービスでは難しい。この状況が続けば、今後高齢者の精神的な健康面で影響が出てくるのではないかと思う。

事務局 通所介護事業所から新型コロナウイルス感染症により休業する連絡を多く受けていたが、休業していた事業所も順次再開している。しかし、自宅の方が安心であると利用控えもあるのが現状である。新型コロナウイルス感染症の感染者数の推移を含め今後の状況の変化を注視していく。

【高齢者向け住まいについて】

委員 全国的にサービス付き高齢者向け住宅が増加しており、そのような住まいも在宅として含まれる。サービス付き高齢者向け住宅等における過剰なサービスが問題となっているが、徳島市の状況はどうか。

事務局 厚生労働省からの通知において、区分支給限度基準額の利用割合が高く、かつ、訪問介護が利用サービスの大部分を占める等のケアプランを作成する居宅介護支援事業者を事業所単位で抽出するなどの点検・検証、また、同一のサービス付き高齢者向け住宅等に居住する者のケアプランについて、区分支給限度基準額の利用割合が高い者が多い場合に、併設事業所の特定を行いつつ、当該ケアプランを作成する居宅介護支援事業者を事業所単位で抽出するなどの点検・検証を行うとともに、サービス付き高齢者向け住宅等における家賃の確認や利用者のケアプランの確認を行うことなどを通じて、介護保険サービスが入居者の自立支援等につながっているかの観点も考慮しながら、指導監督権限を持つ自治体による更なる指導の徹底を図ることが示されている。

徳島市においては、区分支給限度基準額の利用割合が7割以上かつその利用サービスの6割以上を訪問介護が占める事業所について、国民健康保険団体連合会介護給付適正化システムを活用して抽出した結果1件の居宅介護支援事業所が該当したため、地域ケア会議の前段階としてケアプラン点検を実施している。

議事2 「第8期介護保険事業計画における各施策の取組状況について」 施策1～3の説明

施策1 いつまでも元気で暮らせる健康づくり

施策2 生きがいのある地域づくり

施策3 介護予防と社会参加の推進

【施策1について】

委員 健康教育事業や元気高齢者づくり事業について、数値目標からすると評価は「△」となっているが、コロナ禍において取り組み方法を工夫している点は意欲が感じられ評価できると思う。

「施策1 いつまでも元気で暮らせる健康づくり」とあるが、「いつまでも」というのはとても難しい。今後次期目標を考えていく際は、「いつまでも」は取ってもいいのではないかと思うので検討してほしい。

委員 施策1「いつまでも元気で暮らせる介護予防・健康づくりの推進」について、「いつまでも」ではなく「最期まで」が正しいと思う。人は必ず病気になり亡くなるが、その中でその人らしく最期まで生活の質を支えていくことが在宅介護医療介護連携推進事業の理念であると思うが、これは医師だけではなく多職種で連携し進めていく必要があると思う。

【高齢者虐待について】

委員 介護施設等において、夜間にナースコールを使用できないように電極にテープを巻き鳴らないようにしていたという話を聞いたことがある。外部から見たら気付きにくいものであり非常に悪質なものだと思う。その他にも四点柵の使用については、身体拘束であり虐待ではないかと思う。

施設等における内部の巡回、点検を強化する必要があると思う。

委員 昨今、虐待や身体拘束については特に厳しく言われている。施設では職員を対象に年に複数回研修会を開催している。一部そのような虐待を行っている施設があれば施設全体で行っているように見られるため、適切に運営している施設からすると辛いところがある。悪質な場合は積極的に公表すればよいと思う。

委員 大半の事業所がより良いケアを目指して一生懸命取り組まれていると思う。しかし、よくない事例がクローズアップされて介護職や医療現場のイメージダウンになってしまっている。よい事例についても積極的に発信していくことが大切である。

事務局 虐待、身体拘束については、定期的の実施している事業所への運営指導に加えて、外部からの情報提供を基に利用者の生命又は身体の危機がある場合等緊急性が高いときには、監査により事前通告なしで立入検査を実施している。今後もそのような情報があれば速やかに対応していく。

【処遇改善について】

委員 処遇改善加算について、もう少しわかりやすい支払いの仕方をしてほしい。また、現場で働く方々のために、わかりやすい指導を行ってほしい。

委員 処遇改善加算について、現在介護分野では3種類の加算があり、申請が非常に煩雑になっており、申請に必要な書類も多い。事業所によってはまったく申請していないところもある。同じ種別の事業所において処遇改善加算を申請している所と申請していない所では全く違う。

委員 意識を持って普及啓発に取り組んでいくことが大切である。運営指導等の機会を用いて周知に努めてほしい。

事務局 処遇改善加算について、計算方法等についての周知の方法について検討していきたいと思う。

【通いの場について】

委員 国が健康寿命の延伸を目的として、高齢者の方々の通いの場への参加率を2025年度末までに8%とする目標を設置しているが、徳島市は現在何%か。
現在、徳島市において、体操中心の通いの場が32か所ある。ある研究において、1つの小学校区に通いの場がいくつあるかが参加率に影響するという計算式がある。例えば、小学校区内に1つ通いの場があれば高齢者の参加率は1%。徳島市内には小学校が31校あると思うが、体操中心のグループだけでいうと参加率はわずか1%となる。これを8%にするには約240か所の通いの場の設置が必要となる。
積極的に通いの場を増やして、2025年度までに国の設定した目標に近づけてほしい。

事務局 今後、目標に近づけるよう検討していきたいと思う。
(令和4年11月から12月にかけて実施した「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」の結果より、通いの場への参加率は「5.8%」であった。)

施策4～6の説明

施策4 安心して暮らすことができる支え合いの地域づくり

施策5 認知症の人が希望を持って暮らせる共生の地域づくり

施策6 医療と介護の連携推進

【施策4について】

委員 資料7ページの生活支援体制事業における生活支援コーディネーターについて、配置人数のみによる評価となっているが、相談件数や効果など具体的な内容について示してほしい。

事務局 生活支援コーディネーターが4名おり、毎月会議があり報告をしてもらっているが、コロナ禍では地域との交流が非常に難しい。

現在、Instagramを用いての情報発信を行っている。今後は、地域に出てニーズを探り徳島市の施策に反映していければと思う。

委員 現在、Instagramのフォロワー数は1500人を超えた。取り組みの形は決まっていないが、地域の中でつながりを作ることを目的として、子育て世代や高齢者が集まるところに伺い、その内容を発信している。地域課題などニーズが高まった時はそれに応じて様々な活動を行っていければと思う。

【施策5について】

委員 認知症サポータの養成、初期集中支援チームも5チームの活動が順調に進んでいるように思う。認知症カフェの設置・開催は非常に難しいように思う。

今後も「本人が希望を持って前を向き」の文言にあるように、本人の意見をもっと引き出す施策の展開に努めてほしい。地域ごとに認知症の方々の課題を認知症サポーター等の活動と連動していくことを期待したい。

委員 認知症サポーターの方々が具体的にどのような活動をし地域に貢献しているのかが重要になると思う。

【施策6について】

委員 コロナ禍が長期間続いている中で、在宅で生活をされている方やその家族、介護を提供する者が陽性や濃厚接触者となり非常に大変な時間を過ごしている。在宅サービスをどのように継続をしていくか多くの課題が出てきている。

流行時に陽性でも対応可能な事業所についての情報が在宅介護をコーディネートする介護支援専門員に共有されていなかった。今後、情報をリアルタイムで更新し共有できるシステムが必要であると思う。多職種が協力し市に情報を集約し共有していくシステムについて検討してほしい。

事務局 コロナ禍において、在宅で生活する方々が困られたという状況は今までもあり、今後も備えておかなければならないことである。徳島市として、包括支援センターとのつながりの中で情報を取得し発信していきたいと思う。

基本目標2の説明

施策 介護保険事業の円滑な運営

委員 介護給付の適正化は基本的なことであり、今後も確実に進めていってほしい。

議事 2(3) 介護サービスの見込み量について

意見なし

議事 3 保険者機能強化推進交付金及び介護保険保険者努力支援交付金について

【人材確保について】

委員 資料下段の表において、Ⅱ(1)介護支援専門員・介護サービス事業所等、Ⅲ(2)介護人材の確保の得点率が低いのは、徳島市において介護サービス事業所が少なく、介護人材が足りていないということか。

事務局 保険者機能強化推進交付金及び介護保険保険者努力支援交付金における同項目では、実際の状況ではなく、実施した取り組みに対して得点が付される仕組みである。例えば、人材確保においては事業所と介護職とのマッチングや中高生の介護現場の体験等の取り組みを実施すれば得点として評価される。

委員 徳島市は、中高生の介護現場の体験は実施しているのか。実施していただければ若い世代の福祉に対する視点が変わると思う。

事務局 徳島市において中高生の介護現場の体験等は実施していない。介護人材の確保に関する事業について今後も検討していきたいと思う。

【アンケートについて】

委員 市民に対するアンケート結果はないのか。前回アンケート結果を公表してくれて非常に興味深かった。自己評価や他己評価のシステムは非常に重要であると思う。

事務局 第8期計画の際には4種類のアンケートを実施し結果を計画に反映した。現在、第9期計画に向けて同様に4種類のアンケートの実施を進めている状況である。結果については公表させていただく予定である。

以 上